

会 議 録

会議名	平成23年度第1回文化財保護審議会	
事務局	生涯学習課	
開催日時	平成23年5月18日(水) 午後3時30分から5時00分	
開催場所	文化財センター	
出席者	委員	(出席) 赤澤・山口・田中・福嶋・鴨下・二宮・阿部各委員 (欠席) なし
	事務局	尾崎課長・伊藤・倉澤
傍聴の可否	◎可・不可・一部可	
	傍聴者：なし	
不可の理由		
(要点筆記)		
会 議 次 第		
1 報告・協議事項		
<ol style="list-style-type: none"> 1) 事務局人事異動について 2) 指定文化財の指定、登録文化財の登録について 3) 緊急雇用創出事業創出事業(清水家民具館の民具整理等)について 4) 史跡玉川上水整備活用事業について <ul style="list-style-type: none"> ・経過報告 ・現地視察 ・意見交換 5) 第2回審議会日程について 		
会 議 結 果		
(赤澤議長)		
会議を開催します。事務局から報告をお願いします。		
(尾崎課長)		
4月1日付けの人事異動で、前任の生涯学習部長の渡辺が定年退職となり、天野生涯学習部長が昇任しました。伊藤係長が定年退職、再任用職員となりました。文化財係の小島主査は市民課異動し、その後任に倉澤が主任として配属されました。倉澤が主に文化財を担当します。		
(倉澤主任)		
文化財係に配属になりました倉澤淳子です。よろしくお願いします。		

(尾崎課長)

人事異動の関係は以上です。

(赤澤議長)

これからどう運営しますか。

(尾崎課長)

基本的には倉澤が担当ですが、当面の間は伊藤も一緒に運営に携わります。

(赤澤議長)

事務局よりお願いします。

(伊藤主事)

報告2の「指定文化財の指定、登録文化財の登録」について、文化財保護審議会の答申をいただき、3月30日の教育委員会で議決、4月25日付で告示され、指定及び登録されました。

指定は25番～32番の8件で、答申通り指定されました。次に登録これは初めての登録文化財で7件を登録しました。今後、市報、市のホームページ等に掲載して市民に知らせます。これらの文化財は、文化財センターに保管しており、一般に公開します。

(赤澤議長)

次の報告をお願いします。

(伊藤主事)

報告3の「緊急雇用の創出事業」は、文化財に関係するところでは、清水家民具館の民具の整理を行いました。当初100点程度かと思っていたところ、300点近い民具等があり、水洗いし1点1点写真を撮ってデータ化する作業を行いました。それと2年前に発掘調査した貫井遺跡の整理ができていなかったもので、緊急雇用により、整理を行い、20ページほどの冊子(報告書)を作成しました。

報告4の史跡玉川上水整備活用事業は、東京都水道局が策定した「史跡玉川上水整備活用計画」に基づくもので、整備の重点は、崩壊しつつある玉川上水の法面の保存対策と小金井桜の保存活用の2点です。

小金井市の部分については、新小金井橋から関野橋まで約640メートルが22～24年度の3か年度にわたるモデル整備区間で、昨年度は約150メートルを試行的に整備しました。小金井桜(ヤマザクラ)を高木が押し、成長を阻害しており景観もよくないということで桜以外の樹木の伐採を行いました。資料にあるように、55本の高木を伐採し、玉川上水のフェンスの内側に新たに桜を26本補植しました。この桜は「名勝小金井桜の会」が育てたもので、玉川上水の古木や、嘉永年間の補植時の古木から接木したもの、桜川の苗を育てたものです。

2月11日に市民団体と市が共催で復活植樹祭を行いました。復活祭では、吉野町（奈良県）、桜川（茨城県）、北上（岩手県）、小金井の保護団体が「桜のまちづくりを考える」というサミットを開き、小金井桜の復活事業がスタートしました。

この事業について、市民から様々な意見が寄せられています。「ケヤキは落ち葉が多く、掃除が大変なので伐採には賛成」「小金井桜を守るためには今回の事業には賛成」という賛成意見、「木を切るとことは現行の環境政策とは調和しない、逆行した政策だ」という意見もあります。全体を見ると、約70%以上の人がこの事業に賛成だという意見を出されております。桜だけでは生物多様性に逆行するという批判もあります。専門の福嶋先生にご意見を聞きたいと思っております。後ほど現地をご覧いただきたいと思っております。

(赤澤議長)

今の報告について、何かご意見ございますか。住民からも当然反対意見は出てくるでしょうね。その集約とか舵取りとか、今後どのように考えていますか。

(伊藤主事)

行政は、計画通りに進めていく考え方です。

(赤澤議長)

反対意見は無視していくということですか。

(伊藤)

少数意見も無視することはできないと思います。桜並木と雑木が共存できる折衷案もあるかと。

(赤澤議長)

説得してひとつの方向に持っていくしかないでしょうね。反対の人たちを納得させる手立てはないのですか。

(伊藤主事)

桜の並木と雑木が共存できる植生管理ができるのか、専門家の意見をお聞きしたい

(赤澤議長)

その辺は粘り強く、交渉の姿勢を崩さないで対応していただきたい。

(福嶋委員)

折衷案はないです。基本的にはその地域をどのようにするかを決めたということで行くしかないです。雑木林と桜の共存はありえませんから。ケヤキと桜の共存もありえませんので、一番核となるものを何にするか決めたのだからそれを優先するしかない。

行政側があっちこっちいくと、訳が分からなくなってしまう。玉川上水を羽村からずっと見てくると、いろんなタイプの場所があり、小金井は桜がメインだったのが今はそこにケヤキが入ってきて、今から30～40年前に一度切っているがまた出てきてしまっている。小金井は昔の姿に戻すと決めたのだから、その通りやるといい。

それより気になっているのはケヤキのせいで樹形がかなり傾いてしまっている。ちゃんとした樹形に戻るのかということです。

(伊藤主事)

樹形が戻らないからフェンスの中にもう1列並木を作ることになっています。

(赤澤議長)

昔は桜だけの並木だったんですよ。

(福島委員)

戦後手を入れなくなってしまい、雑木が生えてきてしまった。

生物多様性の話ですが、種類が多ければいいということではない。あるものがある、安定しているという状態がいい。外来植物があり、種類が多くてもいいとは言えない。トウネズミモチやシュロなどは本来はあってはいけないものです。

(赤澤議長)

その辺を反対の人たちに根気よく説明して納得させるしかないですね。

(福島委員)

切ったら切りっぱなしではなく、手をかけないといけない。昔の姿に戻すとはそういうことですから。都はそのぐらいの覚悟はあるのですかね。

(鴨下委員)

玉川上水は公園ではないのですね。今管理は文化庁ですか。

(福島委員)

水道局が所有ですが、環境局が管理しています。

どのようにするのか、という線が1本通ってないといけない。小金井は小金井桜の部分には他のものを植える必要はなくて、昔の姿に復刻するのでいいじゃないですか。そのためには当然手を加えなければいけない。

(鴨下委員)

人間のいるところで本当の自然なんてないわけですよ。

(田中委員)

全部人工なのだから、いいんじゃないですかね。

(伊藤主事)

(反対の方たちは) 里山の雑木林の中に桜が混じっているという風景がいいと言っています。

(福島委員)

山の斜面とかならいいのですが、これだけ狭い範囲の中で共存というのは大変難しい、ヒコバエなどは一年で1メートルぐらい伸びます。

(鴨下委員)

都が伐採の方針で行き、地元がそれで納得した場合、小金井には幸い桜の会があるので、都がそこへ管理を委託して費用もちゃんと出してきめ細かい管理をしていかなければ、都の方では維持できない。地元を育てる以外ないと思う。

(赤澤議長)

では報告はこれで終わって、あとは視察ということですね。

次回の会議予定。

10月5日(水) 10:00から602会議室

以上